

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	人文学部文化学科
学年(出発時)	2年
大学名	国立高雄師範大学
国	台湾
留学期間	2014年 2月 18日 ~ 2015年 2月 13日
派遣先での身分	華語文教学研究所碩士班

一日の生活スケジュール(通学時)	
	記入欄
8:00	
9:00	授業
10:00	授業
11:00	授業
12:00	昼食
13:00	言語交換
14:00	言語交換
15:00	
16:00	自習
17:00	
18:00	夕食
19:00	買い出し等
20:00	
21:00	課題
22:00	自習
23:00	就寝
0:00	

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
華語	15時間		中国語	レポート有・パワポでの発表有・試験有

大学のサポート	
チューターの有無	有
チューターのサポート内容	授業のサポート・異文化交流・生活の相談など
語学コースの有無	有(大学附属)
コース名、料金、期間等	交換留学のため学費免除、一学期3か月

生活	
住居のタイプ	学生寮
住居の名前	蘭苑
部屋タイプ	ドミトリタイプ(4人部屋を3人で使っていました)
ルームメイト(国籍)	(前期)台湾人1人・日本人1人 (後期)ベトナム人1人・日本人1人
室内設備	ベッド・勉強机一式・クローゼット・棚
共用施設	洗濯機(1回10元)乾燥機(1回10元)脱水機(無料)浄水器、掃除道具、電子レンジ
インターネット設備	有線(無料、もしくは寮費に入ってる)
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	徒歩5分
アルバイトの有無	なし
アルバイトの内容	なし

渡航	
Visaの種類	居留証
Visa申請先	台北駐大阪経済文化弁事処(四つ橋線 肥後橋駅 近く)
Visa取得にかかった日数	2日
Visa取得にかかった費用	査証代6600円 手数料6300円
Visa取得方法、提出書類等	提出書類:3か月以内の健康診断書、ウェブサイトでの登録及び印刷、大学側の入学許可証、証明写真、残高証明書を持って大阪にある台北駐大阪経済文化弁事処へ提出(私の場合、事務所まで直接伺う時間がなかったため、旅行会社に代理で申請をお願いしました。そのため、手数料が余分にかかっています。)
留学先大学の最寄り空港までの経路	高雄国際空港→地下鉄→文化中心駅→徒歩→大学
渡航費用	約20万(空港までの交通費等含みます。関西空港だったので前泊しました)
ピックアップサービスの有無	有り

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	1年卒業が遅れる
有る場合、その理由	台湾でやりたいことが見つかり、半年私費で留学を延長することになったため
就職活動開始時期	2016年4月
帰国後の進路	就職

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	1ドル＝3.75円 (2015年2月)
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	17万9千円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	年間約7000円(教科書代のみ)
宿舍費(月額)	約5000円(学期ごとに徴収されます。長期休暇中は別途必要)
光熱費(月額)	なし 夏場はエアコンの使用量により一部屋月900円～3000円くらい(それを人数で割ります)
食費(月額)	約18000円(寮にキッチンがないので、ほとんど外食)
その他	旅行・お土産代・娯楽費・交通費など 15万
留学期間中にかかった費用の合計	約70万

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

台湾へ来てまず驚いたのは生活文化の違いです。日本では外食しようと一歩外に出れば、どこのお店を選んでも衛生的な環境でおいしい料理が提供されます。また店員の接客態度も丁寧です。台湾での外食といえば、日本のような正式なレストランもちろんありますが、多くは屋台です。お祭りなどで見る屋台や出店の規模を少し大きくしたような感じです。そのためあまり衛生的ではありません。ありがたいことに私は何ともなかったのですが、他の留学生の友人は、台湾に来た当初、お腹を下したそうです。しかし、その代わりに店の人との距離が近く、何度か通えば顔を覚えてもらい仲良くなったり、週末にどこかに連れて行ってくれたりとても温かい人ばかりでした。温かい、というのは店の人に限らず、街行く人たちは私が道に迷っていたり、困っていたりしていると向こうから声をかけて助けてくれました。初めは不安ばかりの留学でしたが、そんな優しい台湾人のおかげで、だんだんと生活にも慣れていき楽しく過ごすことができました。また、台湾人とふれあう機会が多くなると、自分の語学力のなさを改めて痛感させられます。台湾人の友人たちは、私の稚拙な中国語を一生懸命聞き取ろうと耳を傾けてくれます。時には「おはよう」「ありがとう」など簡単な日本語を覚えて話してくれます。私はそのたびにもっとがんばらないと、と思いました。学校の授業はすべて中国語で行われます。日本語はもちろんのこと英語も話すことは許されません。そして、自らの意見を言わなければいけません。時にはクラスでディベートを行うこともあります。黙っていれば、「自分の意見を持たない子」と認識されてしまいます。最初は戸惑いましたが、負けてはならないと思い、勇気を出し発表しました。失敗することもちろんありましたが、先生をはじめクラスメートたちは何も気にしません。失敗を恐れ意見を言わないことのほうが注意をされてしまいます。日本では相手の意見と異なる意見を言う場合少しためらってしまうことがあります。それは反対の意見を言うとうと、相手の意見を否定してしまうような気がするからです。しかし、この留学を通し、相手の意見を受け入れ認めたくて、自分の意見を言うということの大切さがわかりました。これは、これから私が大学を卒業し、社会に出た後にも必ず必要となる力だと思えます。留学の途中、自らの語学力を確かめようと華語能力検定を受験しました。これは、台湾版の中国語検定のようなものなのですが、私はあえて自分のレベルのひとつ上の級を受けました。試験までの期間はいつもより勉強時間を取り、試験対策をしました。試験の手ごたえはあまりなく落ちたと思ったのですが、結果はなんと合格していました。検定の結果がすべてではないのですが、自分の今の実力が数値になって表れると、留学前との進歩を実感し、嬉しくなりました。1年間の留学を通し、語学力の上昇だけではなく、台湾の文化を直接肌で感じ、日本ではできない様々な体験をすることができました。私は当初1年もの長期間日本を離れるのは怖く、留学に行くかどうかとても悩みました。中国語を学ぶのであれば日本でもできるのではないか、コミュニケーションがうまくとれないことで騙されたり、事件に巻き込まれたりしないだろうか、そんなことばかりが頭をよぎりました。また、高雄師範大学への交換留学は私の代が初めてであり、経験者のアドバイスをもらうことができなかったのも不安が大きくなる原因でした。しかし、一歩前へ踏みだし、留学することを決意しました。留学を終えた今、あの時の判断は間違っていなかったと思っています。この1年間は私にとってとてもかけがえのない大切なものとなりました。高雄師範大学では、三重大に交換留学したいという学生や日本語を学びたいという学生が何人もいました。その人たちが今後三重大へ留学しに来たり、三重大の学生が高雄師範大学に留学したりして、二校の交流がますます深まっていくことを願っています。そして、私たちがその栄えある1期生であったことを嬉しく思います。

今後留学する人へのアドバイス

台湾は日本から飛行機に乗ってたった3時間で着いてしまいます。しかし、そこでの生活は日本でのそれとはまったく別物であり、新鮮な毎日を送れます。また多くの台湾人は親日的であり、たくさんの台湾の友人をつくることができます。彼らはよく日本の文化や生活、歴史などについて聞いてくるのですが、たまに答えられないことがあり、冷や汗をかいてしまいます。留学において、出国前に語学力を向上させ授業に備えるのももちろん大切ですが、日本のことについて十分な知識を蓄えておくことも重要です。留学をしている間に会った台湾人や他の外国人からすれば、「私」が日本人代表になるのです。彼らに与える印象や伝えた言葉自体が日本のこととして捉えられます。もし私が日本の歴史について問われ何も答えることができなかつたら、彼らに「日本人」は自国の歴史に無関心な人種である、と見なされてしまうのです。海外に留学すると今まで体験することのなかった責任を問われます。しかし、それと引き換えにたくさんのかげがえのない友人や知識、経験などを得ることができます。何度も辛いことがありますし、日本に帰りたくなる時だってありましたが、それを乗り越えることでまたひとつ成長することができたと思います。留学を迷っているみなさん、一歩踏み出してみませんか。きっと新しい世界が広がるはずです。

報告書記入日

2015年2月25日